

# 春 闘



12月8日に行なわれた和解報告集会所での記念撮影 (岩手労働福祉会館)



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部  
発行者 奈良岡 克也  
編集者 小林 良宏  
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2006.1.10  
第1369号

## 新年 特集号

### 年頭あいさつ

## 「不撓不屈」の精神で 団結し粘り強く闘おう

地本執行委員長

奈良岡 克也

明けましておめでとうございます。盛岡地方本部執行委員会を代表し、組合員と家族の皆さんに年頭のご挨拶を申し上げます。

私達盛岡地方本部は、昨年一〇月に第六一〇回定期地方大会を開催する中で、一年間の運動方針を決定すると共に、新執行部を選出しました。

新執行体制は、全国組検の経過を踏まえて二名の専従体制となり委員長の奈良岡と高橋書記長で担当し、菊池副委員長は非専従で頑張ることになりました。引き続き全組合員のご支援を宜しくお願いします。

さて、国労最大の闘争課題である「JR不採用事件の政治解決」については、一部闘争団の係争による「鉄建公団訴訟」判決が昨年九月一五日出され、旧国鉄の不当労働行為の認定と慰謝料支払いを命じ、損害賠償請求の効力は本年一二月二二日に成立することとなりました。



これを受けて国労本部は、政治解決に向けた体制構築を目指し、一部闘争団と支援グループ・建交労(全動労)争議団等との大同団結を呼びかけています。

盛岡地方本部はこれに迎え、帯広・音威子府両闘争団との関係修復、アルパの売り上げ増、「2・16全国集会」の成功等に集中的に取り組む等、国労本部を支えながら、政治解決の早期実現を期したいと思います。

次に、JR東日本会社関連の不当労働行為事件の和解解決については、一昨年の「配属差別事件」に続き、昨年一〇月三十一日「昇進昇格差別事件」の和解解決が成立し、昨年暮からは「出向・配転差別事件」の一括和解に向けて和解作業がスタートしています。盛岡地方本部は東日本本部との連携を一層強め、JR東日本会社との「労使関係正常化」を実現させるよう努力を続けていきます。

また、JR東日本会社は「NF21計画」から「NF2008計画」へ・JR貨物会社は「NC21計画」から「NS2007」へと新たな経営基本計画を発表しましたが、私達

はこれらに対して労働条件改善の努力を強めていきます。昨年の「福知山線脱線転覆事故」と「羽越線脱線転覆事故」は多数の死傷者を生み出し、利用者・国民のJRに対する信頼を大きく損ねました。私達は「安全は輸送業務の最大の使命である(安全綱領第一項)」ことを肝に命じ、JRの安全・安定輸送確立のために国労の総力を結集していきます。

次に、組織拡大は団塊世代の退職期を迎えて焦眉の課題です。昨年末、青森運輸分会で一名の加入者を獲得したことで、合計四名(通算六名の組織拡大を実現しましたが、本年は平成採用組の国労加入者の獲得に努力が求められます。とくに、JR総連・JR東

労組への警視庁公安部の強制捜査やJR連合・JR東ユニオンの配転問題訴訟等、組織拡大の絶好のチャンスが到来していることを認識し、本年も全力を挙げて取り組みます。最後に、岩手県議補選「花巻選挙区(二月五日投票)」に立候補予定の「木村幸弘」氏の勝利を目指し、平和・護憲・反核の闘いの出発点と位置付け、地方本部全体で精一杯闘うこととします。

この様に私達には幾多の闘争課題が山積していますが、盛岡地本執行委員会は本年も「不撓不屈」の精神で団結し、粘り強く闘う決意を表明し、私もその先頭で奮闘することをお誓いして新年のご挨拶と致します。

### 〈本年もよろしくお願ひします〉

地方本部役員

執行委員長 奈良岡 克也 (青森運輸区分会)

執行副委員長 小林 良宏 (盛岡施設分会)

執行副委員長 菊池 要悦 (盛岡駅連合分会)

書記長 高橋 伸二 (北上施設分会)

執行委員 岩 脇 勇 (盛岡運輸区分会)

執行委員 近 藤 信博 (盛岡駅連合分会)

特別執行委員 斎 藤 庄司 (盛岡運輸区分会)

特別執行委員 笹 山 賀庸 (八戸工務分会)

特別執行委員 小野寺 京子 (一ノ関運輸分会)

特別執行委員 浦 山 正年 (元北上駅連合分会)

会計監査員 高橋 正行 (北上施設分会)

会計監査員 高橋 亮一 (一ノ関運輸分会)

会計監査員 山 田 修 (青森電気分会)

地方本部書記・職員

遠藤 正 西 館 忍 三 浦 佳 三 大宮 千恵子



# 新年おめでとらござります



## 闘いを継続する中で 差別の無い試験制度を

弁護士 菅原 一郎

組合員の皆さん明けましておめでとらござります。昨年、私たちは一三年かけて昇進差別事件で十分な点はあるものの、一貫して昇進試験での差別を否認し続けてきた会社に、今後は試験を公平・公正に運用すると態度表

明させ、少なくとも金銭を和解金として支払わせるといふことで事件を解決しました。これは、これまでの労働委員会闘争に取り組んできた多くの組合員と弁護団の努力の成果であることは明らかですが、組合全体の取り組みが背後にあったことが勝利を生み出したと見ることが出来ると思います。しかし、今後は黙っていても会社が公正・公平に試験制度を運用してくれるであろうと楽観することは間違っていると思います。会社の方針に不満を持ち、抵抗する人達も存在するはずですし、長年の制度運用が本社の命令一本でそう簡単に是正されることも思えないからです。これからも差別的な試験運用が行われることが無いように運動を継続していかなくてはならないでしょう。その延長線上で差別と無縁の試験制度が生まれるのではないのでしょうか。



## 平和と安心安全の 社会を求めて

会長 齋藤 文三

新春のお喜びを申し上げます。昨年は、市場経済主義、官から民へ、安心安全を度外視したコスト削減、利潤追求競争主義社会の弊害が噴出した大災の年でした。四月二五日の尼崎・脱線転

覆事故、死者一〇五名、負傷者五四九名の大惨事の原因は「国鉄分割民営化」で鉄道の最重要課題「安全輸送」を顧みず、JR各社が一八年間に渡って過酷な利潤追求競争を進めていることがこの大惨事の最も大きい原因です。一二月には、高層建築の耐震強度偽装が大問題となりました。五〇〇〇万円ものローンを組んで手に入れたマンションが震度五で倒壊する。このようなマンションやホテルが八一棟も確認されました。しかも、一九九八年に建築基準法が改正され、建築確認が民間企業に開放された時期から、人命の危険を踏み台にして利益をむさぼる偽装が始まっていることです。また、自民党は「自衛隊を自衛軍として交戦権を認める」改憲案を示しました。今年も昨年、「平和と安心安全の社会を求めて」麻薬犬や盲導犬の如く活動しましょう。国労運動の力強い前進と皆様のご健勝とご多幸をご記念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

**組合員の声を** 新年を迎え組合員の皆様も、それぞれ思いを新たにしていることと思います。「国労盛岡」定期版も毎月一〇日付の発行で、今号で一三六九号となっています。教習部として組合員に親しみを感じてもらえる機関紙の作成を目指して行きたいと思いを新たにしているところです。是非、組合員の声を寄せていただけるようお願いいたします。



## 身近で、頼れる 共済に一層の努力

全国交運共済生協東日本事業本部東北支所 事業副本部長 高嶋 昭一



新年あけましておめでとらござります。一年間の事業の特徴点を顧みれば、①「自動車共済は」全労済と事業統合しての初年度でした。低掛金、補償とサービス充実から一分会二台の加入拡大を設定して取り組み、一定の成果をあげること

ができました。②「地震風水害共済」は、一月から二月末にかけ途中契約を取り組みました。中越地震や宮城県沖を震源とする地震等、昨今の自然災害の頻発と組合員のニーズを受け、「まさかの時に備える」の視点で取り組み、これまで成果を上げることができました。③「入院共済」に加入されている方に、三年分の配当金が送金され喜ばれたことを挙げる事ができます。事業全体としての組合員の「吉区禍福」や「生活の向上」に貢献しているものと受け止めています。

二一世紀は、世界的に「災害の年」と言われ、そして日本という災害列島に「居」を構えている私たちに、用意周到な心構えが必要だと警鐘が打ち鳴らされています。本年も東北支所職員一同、みんなの共済・身近な共済・頼れる共済に向かって、一層、努力することをお誓い申し上げます。結び、国労盛岡地本の運動の前進と組合員・家族の皆様のご多幸を祈念し新年のご挨拶と致します。



## 岩手県議補欠選挙 木村幸弘に力添を

地本議員団 団長 本宮 秀孝

新年あけましておめでとらござります。昨年は、究極の差別とも言われる「昇進・昇格差別事件」が和解、国労闘争の全面解決に向け大きく展望を切り開いたと思います。今年一年が正念場であり、組合員の皆さん

の総団結・総行動を期待いたします。国労議員団として、昨年は久保孝喜氏が衆議院選挙で大変お世話になりました。今年一月二七日、二月五日投票で施行される岩手県議花巻選挙区補欠選挙(定数二)に木村幸弘氏(元花巻市議会議員)が立候補を予定しておりますので、組合員・ご家族・鉄道退職者の会の皆様のお力添えをお願い申し上げます。本年もご挨拶といたします。本年も教育基本法の改悪をはじめ、

サラリーマン減税の廃止、消費税率のアップ、医療年金改悪等、国民不在の政治が横行しようとしています。政治を国民の手に取り戻すために、国労がその先頭で頑張ることを強く願うものです。私たち国労議員団は、地域から全力で奮闘する所存です。国労闘争勝利と組織の飛躍、皆様のご多幸、ご健勝を心から祈念申し上げます。本年もご挨拶といたします。本年もよろしくお願いたします。



## 木村幸弘氏を推せん決定 岩手県議・花巻選挙区補選

岩手県議会議員花巻補欠選挙(欠員二)が、一月二七日告示、二月五日投票で実施される。同選挙には、国労議員団である木村幸弘氏(元花巻市議)が社民党公認で立候補を予定している。国労も緊急執行委員会を開催し推薦決定。組合員に取り組みを要請しているところである。議席確保に向け、北上地区協を中心にして組合員で運動の展開を。

苦闘の一三年余、ようやく目の目を見た感じがします。しかし、これまで長かった和解で会社は、昇進試験制度の運用を公平・公正に実施すると約束したというところは、今まで公平・公正に行われていなかったということである。昇進差別の実態を明らかにするため分会調査部は、

## 昇進和解、苦闘の13年余 心からご苦勞様と言いたい

元盛岡運転分会 分会長 松山 剣司



受験者を中心に聞き取り調査をしました。さらに他労組合員、管理者、助役等の東労組合員の言動等を調査し、地本に提出したのが始まりでした。その後毎年受験するよう呼びかけ継続調査してきました。地労委審問で、私も含めて証人となった組合員は、主尋問・反対尋問と大変だったと思います。緊張して証言しました。審問が始まり、回数を重ねて、分会組合員からは「申立をしなれば良かった」「いつ決着・結審するのか」と出ましました。岩手地労委では不当命令が出されたが、神奈川・秋田地労委等で組合差別があったと救済命令が出されたことは、勝利に繋がると思いました。解決できたのは、弁護団・地本・支部・地区協・家族会・退職者の会、そして各分会の皆さんのお陰です。ご協力に感謝いたします。また、盛岡運転分会の皆さんと闘ってきたことに心からご苦勞様と言いたいです。今後健全な労使関係の確立を目指してください。